

キンイロネクイハムシ（鞘翅目，ハムシ科）富山県に産す

著者	鈴木 邦雄, 板倉 範枝
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	9
ページ	93-95
発行年	1986-09-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=523

短 報

キンイロネクイハムシ(鞘翅目, ハムシ科)
富山県に産す

鈴木邦雄・板倉範枝
富山大学教養部生物学教室

キンイロネクイハムシ *Donacia* (s. str.) *japana* CHÛJO et GOECKE, 1956は, 京都市の深泥池を模式産地として記載され, 本州および九州北部に分布するが, 朝鮮・中国東北部からも知られている(木元, 1984)。本州では, 青森県から山口県までの極めて広い地域に分布するが, 生息地はかなり局限されており, 青森県下と近畿地方を除けば, 産地はほぼ日本海側の地域に限られている。北陸地方

では, 福井県下の数ヶ所から知られているにすぎなかった(野尻湖昆虫グループ, 1985)。

筆者らは, 数年来, 富山県下各地でトンボ類の調査のかたわら, ネクイハムシ類の調査も行っているが, 1985年5月, 婦負郡婦中町で, 谷戸に形成された湿地に群生するミクリ属の1種 *Sparganium* sp. (ミクリ科) に発生している本種を発見, 多数の個体を採集したので報告する。

富山県婦負郡婦中町高塚, 49♂♂32♀♀, 1985年5月10日および5月18日, 鈴木邦雄・板倉範枝採集。

本種を発見した場所は, 水田が階段状に作られた小さい谷戸の最奥部で, 細流が左右から注ぎこんで泥深い湿地帯を形成し, 中央部

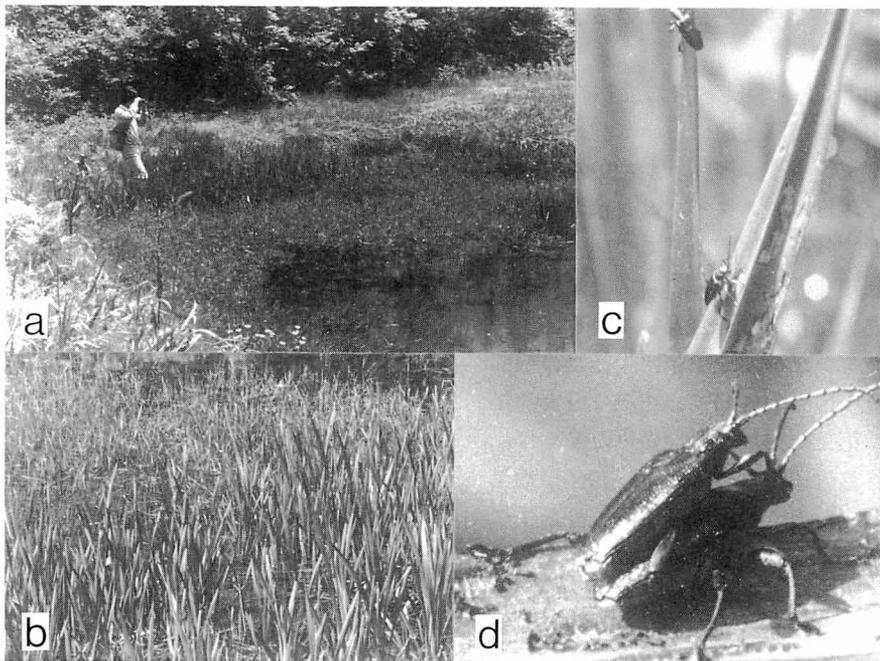


図1 a. キンイロネクイハムシの生息地(婦負郡婦中町高塚), b. ミクリの1種の群落, c. ミクリの1種の葉上で食害中の成虫, d. 同じく交尾中の雌雄。

に小さい沼がある(図1 a, b)。エゾイトトンボ *Agrion lanceolatum* SELYS (イトトンボ科) やヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* SCHMIDT (トンボ科) の発生が認められることから、この沼が涸れることはまずないものと思われる。ミクリ属の1種の他、スゲ属の1種 *Carex* sp. がみられ、ミズクサハムシ属の1種 *Plateumaris* sp. も少数ながら同所に生息していることが確認できた。しかし、この付近一帯には自然の地勢を利用して作られた灌漑用の溜池や湿地帯が各所にあり、ミズクサハムシ属の種はかなり普遍的に生息しているが、本種はその宿主植物であるミクリ属の植物と共に他の場所からは発見していない。小路(1978)によれば、ミクリ属のようないわゆる抽水(挺水)植物も、かつては県下各地に広く生育していた模様であるが、近年は激減しており、現在の確実な生育地はかなり限定されているようである。

本種の生活史に関しては、既に塚本ら(1960)が京都市深泥地において詳細な研究を行っている。最近、野尻湖昆虫グループ(1985)は、日本産ネクイハムシ類の分類・形態・地理的分布・生態などについて、本種を含めた既知種のすべてについて既知見を総括的に整理した報告書を公表している。

ネクイハムシ類は、幼虫が水生植物の根部を食害し、成虫も水生植物の花部に好んで集まるため、第三紀褐炭～亜炭層(たとえば、岩手県岩谷堂近辺; UEDA et al., 1960) や第四紀泥炭層(たとえば野尻湖; 野尻湖昆虫グループ, 1985) などからしばしば化石として発見される。富山県下からは、キヌツヤミズクサハムシ *Plateumaris (Euplateumaris) sericea* (LINNAEUS, 1768) [田中(1971), 富山県昆虫研究会(1976, 1979), 鈴木(1981)など] が各地から報告されている他、ホソネクイハムシ *Donacia* (s. str.) *vulgaris*

ZSCHACH, 1788 [田中(1971)] が記録されている。しかし、ネクイハムシ類は、同定の困難な近縁種が多いので、以上はいずれも複数の種を混同している可能性がある。キヌツヤミズクサハムシは、筆者らも県下各地で生息を確認しており、東砺波郡城端町縄ヶ池で死体を拾ったとの情報(長田, 私信)も得ている。また、富永・桂・野尻湖昆虫グループ(1984)は、最近、中新川郡上市町つぶら池を模式産地としてトヤマオオミズクサハムシ *Plateumaris constricticollis toyamensis* TOMINAGA et KATSURA, 1984 を記載した。富山県に隣接し、ネクイハムシ類の生息地に関してかなり共通の立地条件を備えていると考えられる長野・新潟両県下からは、これまでに計10種が記録されている(野尻湖研究グループ, 1985)。筆者らのこれまでの野外調査の結果によれば、富山県下にはネクイハムシ類の宿主となる水生植物の生育する湿地・池沼・河川(特に河口域)などがまだ各所に散在しているので、なお数種が新たに発見される可能性がある。筆者らの手許にも相当数の標本が集まっているが、キンイロネクイハムシは上記以外の場所からは発見されていない。近年の急速な自然環境の人為的破壊によって、特に平地～低山地帯のネクイハムシ類の生息地が次々と失われつつあることは実に憂慮にたえない。富山県下のネクイハムシ類については、自然環境の保全度を知る上からも、今後なお調査を続け、改めて報告することとしたい。

食草についてご教示いただいた富山大学理学部の鳴橋直弘助教授、文献その他でご協力いただいた福井市郷土自然科学博物館の長田勝氏と富山県昆虫同好会の田中忠次氏に感謝の意を表す。

文 献

CHÛJO, M. & H. GOECKE, 1956. Contribu-

- tion to the fauna of Chrysomelidae in Japan (II). Akitu, Kyoto, 5:60-62.
- 木元新作, 1984. ハムシ科. 林 匡夫・森本 桂・木元新作編「原色日本甲虫図鑑IV」(VII+438 pp., 72 pls.) : 147-222, pls. 29-43.
- 小路登一, 1978. 富山県における水生植物. 田中 晋編「富山県の陸水生物」富山県(347 pp.) : 29-70.
- 野尻湖昆虫グループ, 1985. 「アトラス・日本のネクイハムシ」, 182 pp. 大阪自然史博物館昆虫研究室内同グループ発行.
- 鈴木邦雄, 1981. 立山の昆虫. 立山連峰の自然を守る会編「立山の自然—その開発と自然保護—」(139 pp.) : 79-81.
- 田中忠次, 1971. 「富山県産昆虫目録」, 242 pp. 自刊.
- 富永 修, 桂 孝次郎, 野尻湖昆虫グループ, 1984. 日本産ネクイハムシ亜科に関する研究. 2. オオミズクサハムシの地理的変異と近似の一新種について. 大阪市立自然史博物館研究報告, 37:25-40, pl. 8.
- 富山県昆虫研究会, 1976. 立山の昆虫相. 日本自然保護協会・富山県自然保護協会編「中部山岳国立公園立山黒部地区学術調査報告」(530 pp.) : 223-369.
- 富山県昆虫研究会編, 1979. 「富山県の昆虫」, iv+545 pp., 7 pls. 富山県.
- 塚本珪一, 岸井 尚, 小山 貢, 1960. キンイロネクイハムシに関する2・3の知見 Akitu, Kyoto, 9:17-21.
- UEDA, F., J. IWAI, H. OZAKI & M. OHNO, 1960. On the geology of Iwayado and its adjacent regions, with a note on a Tertiary species of aquatic leaf-beetles. Bull. Nat. Sci. Mus., 5 : 95-99.